

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	かながわけんりつよこはまこくさいこうとうがっこう				②所在都道府県	神奈川県
26～30	①学校名	神奈川県立横浜国際高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	国際情報科 553名 (平成26年度は1年次は6クラス規模 240名の予定)	
国際情報科	197	197	159		553		
⑥研究開発 構想名	気づき、考え、行動するグローバル・リーダー育成の戦略的プログラム						
⑦研究開発の 概要	国際情報科を設置する単位制の専門高校としての教育課程に基づく国際教育を土台に、探究型学習の機会をさらに充実・発展させ、論理的・批判的思考力を育成する。さらに、生徒が将来グローバル社会でリーダーとして活躍するという明確なビジョンを描くことができる教育活動を展開する。						
⑧研究開発の 内容等	⑧-1 全体	(1) 目的・目標					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的 日本人としてのアイデンティティを持ち、グローバル社会の課題を認識し、問題解決能力を発揮して、解決策を論理的に発信し、成果を上げることができる人間的魅力に満ちたグローバル・リーダーを育成すること。</li> <li>・ 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外大学等への進学や将来留学を目指す生徒数及び将来グローバル・リーダーとしてのキャリアイメージを持つ生徒数を増加させる。</li> <li>・ 高い論理的・批判的思考力と、積極的に挑戦する態度や自分の意見を表現する態度が身に付き、その結果として、コミュニケーションツールとしての英語の運用能力のさらなる向上を図る。</li> </ul> </li> </ul>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>現状の分析</u> 多くの生徒が、入学時より外国語学習に対する意欲と高い語学力を有し、本校でさらに語学力、大学入試に対応できる学力、国際的な教養を高め、志望大学へ進学し、大学卒業後は語学力を活かして国際社会で活躍する将来像を描いている。</li> <li>・ <u>研究開発の仮説</u> スーパーグローバルハイスクールとしての新たな取組として、課題研究を中心とした探究活動等を実践し、論理的・批判的思考力及びコミュニケーション能力を育成することによって、生徒に次のような変容が起こる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本を含めたグローバル社会の諸問題に対する興味関心が高まり、自分の意見を積極的に発信したいという意欲が高まる。</li> <li>2) グローバル・リーダーとしてのキャリアイメージを明確に持てるようになり、留学や海外進学を目指す生徒が増加する。</li> <li>3) 副次的効果として、コミュニケーションツールとしての英語の運用能力が伸長する。</li> </ol> </li> </ul>					
		(3) 成果の普及					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページ上での活動報告（日本語・英語）</li> <li>・ 研究紀要等の作成</li> <li>・ 校内外における様々な機会での生徒による発表</li> <li>・ 授業公開及び研究協議</li> <li>・ 県内外における各種研究協議会等での教員による発表</li> <li>・ 各種視察団受け入れ</li> </ul>					

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>	<p><b>(1) 課題研究内容</b></p> <p>本校には、語学力が高く、好奇心が強く、何事にもチャレンジしていく生徒が多い。これらの生徒の長所をさらに生かし、語学以外の学力もしっかり身に付けた自己発信力をもつグローバル・リーダーに生徒を育てていくことを目的に、大学、国際機関や企業等の協力を受け、特に3つのサブテーマによる次のような課題研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルビジネス：日本人が当然と考えている日本（人）の魅力（「おもてなし」「Punctuality」「勤勉さ」など）をグローバルなビジネスに活かす方法は何か。</li> <li>・国際平和貢献：「貧富の格差是正」「教育の整備」「宗教対立」「軍縮」などに対する日本の強みを活用した具体的な提言。</li> <li>・環境問題：「地球温暖化」「種の減少」「砂漠化」「大気汚染」「食の安全」などに対する日本の強みを活用した具体的な提言。</li> </ul> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p>実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育課程の編成（平成26年度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間（1年次 1単位）</li> <li>・現代社会（1年次 2単位）</li> <li>・外国語以外の授業における外国語による講義</li> </ul> </li> <li>○ 外部機関との連携協力による講演会、ワークショップ等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに関する専門家（大学教授、企業担当者、国際機関職員）による講演等</li> <li>・大学生による、テーマ設定やディスカッションでのピアサポート</li> </ul> </li> </ul> <p>検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマに関する書籍や新聞記事等を読んだレポート作成、講演等に関するレポートをまとめたポートフォリオの作成。</li> <li>○ 授業や、その他の様々な機会（校内での活動や、外部の公的な大会）への取組状況。</li> <li>○ 生徒・保護者・教員対象アンケート調査の結果。</li> </ul> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>      なし</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <p>内容と実施方法（平成26年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携大学教員や大学院生等による研究の進め方、論文作成方法に関する指導</li> <li>○ 外国語学習による論理的・批判的思考力の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語合宿（1年次生全員参加）における様々なプログラム</li> <li>・総合英語（4単位）でディベートを行い、外部の大会での上位入賞を目指す。</li> <li>・集中的な国内研修による特別プログラムにおいて、論理的・批判的思考力及びコミュニケーション能力を育成する。（1年次生全員参加で夏に実施）</li> </ul> </li> </ul> <p>検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ブックトークやグループワーク、ディスカッションの取組状況</li> <li>○ 各授業、講演、テーマに関するレポート等のポートフォリオ</li> <li>○ アンケート調査や振り返りシート等</li> </ul> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>      なし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県の方針により入学者選抜や編入学試験において帰国生徒の受入れを積極的に実施している。また、留学生や海外からの視察団の受入れも積極的に行う。</li> <li>○ サマープログラム、姉妹校交流事業、外部のコンテスト等への参加を奨励している。</li> <li>○ 毎日昼休みにはラウンジでCNN放送を視聴することができる。また、自学自習用に語学のeラーニングシステムを全校生徒が利用できる。</li> <li>○ 生徒主体の活動を中心とした授業を行うために、毎年2回上智大学の言語教育研究センターの吉田研作教授に授業改善のための指導を受けている。</li> <li>○ ネイティブ講師や留学生を交えたアカデミックなワークショップを夏に実施する。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>	<p>本校の教員は、県内でもその意欲と指導力が高く評価されている。特に外国語科の教員は、指導法に関する様々な研修の受講経験があり、組織的な授業改善の中核人材となっている。</p>

ふりがな	かながわけんりつよこはまこくさいこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	神奈川県立横浜国際高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	600人
	SGH対象生徒以外:	人	450人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 全校生徒が自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組むことを目指す。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	300人
	SGH対象生徒以外:	200人	250人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 現在の2割増の生徒が自主的に留学又は海外研修に行くことを目指す。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	%	54%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 全校生徒が将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考えることを目指す。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	人	53人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 現在の約2倍の生徒が入賞することを目指す。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	60%	60%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 生徒の英語4技能を更に向上させる。									
高校卒業時まで英検準1級以上を取得している生徒									
f	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	25%
	SGH対象生徒以外:	%	13%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 現在の12%増の生徒が取得することを目指す。									
将来、国際機関職員・外交官・社会起業家・政治家・グローバル企業の経営者・世界的な国際問題の研究者等を目指す生徒の割合									
g	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	65%
	SGH対象生徒以外:	%	54%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 現在の約11%増の生徒がこれらの職業を目指すことを目指す。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	65%
	SGH対象生徒以外:		50%	50%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 現在の3割増の生徒が国際化に重点を置く大学へ進学することを目指す。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	14人
	SGH対象生徒以外:		7人	4人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 平成24年度の2倍の生徒が海外大学へ進学することを目指す。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGHでの課題研究が、全校生徒の大学の専攻分野の選択に影響を与えることを目指す。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 卒業生の約半数が大学在学中に留学又は海外研修に行くことを目指す。								

## 2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	200人	人	人	人	人	人	300人
目標設定の考え方: 全校生徒の半数が、課題研究に関する国外の研修に参加することを旨とする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	200人	人	人	人	人	人	600人
目標設定の考え方: 全校生徒が課題研究に関する国内の研修に参加することを旨とする。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	7校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方: 課題研究に関する連携を行う海外大学・高校を新規に3校増やす。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	2人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方: 現在行っている取組を、可能な範囲で拡充する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	10人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 現在行っている取組を、可能な範囲で拡充する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	10人	人	人	人	人	人	300人
目標設定の考え方: 全校生徒の約半数が参加することを旨とする。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	60人	人	人	人	人	人	70人
目標設定の考え方: 現在行っている取組を、可能な範囲で拡充する。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	3回	回	回	回	回	回	6回
目標設定の考え方: 現在の2倍の回数を目指す。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている    △一部整備されている    ×整備されていない							
		△						○
目標設定の考え方: SGHの研究成果を含め、広く世界に本校の教育活動を広報するために、英語によるホームページを整備する。								
先進校としての研究発表や研修会への外部からの参加者数								
j	人	75人	人	人	人	人	人	140人
目標設定の考え方: 現在の2倍の人数が外部から参加するように、県の内外に、研究発表や研修会について周知する。								

### <調査の概要について>

#### 1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	514	553	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							